



『斐太後風土記』によると、第 16 代仁徳天皇の 65 年、両面宿禰追討の際、武振(たけふる)熊(くまの)命が中津原をはじめとして、官道のところどころに先帝応神天皇の尊霊を祭祀した、「飛騨八幡八社」の 1 であると言われている。

古来飛騨国内における有名社で、応永年中(1394~1427)三木氏の崇敬厚く、戸田采女正による元禄検地には、1 町 9 畝 13 歩の境内除地を受けた。また、千古不伐の森として杉・桧などの古木が鬱蒼(うっそう)としていたが、第 2 次大戦後、伐採などにより皆無の状態となり、境内また縮小して旧観もなくなった。

明治維新村社に列した。

同 40 年神饌幣帛料の供進を指定され、同 42 年には区内 6 社を合併合祀し、また大正 6 年には神社会計指定を受けた。

官制廃止後、単立神社となる。

特に当社拝殿は、益田地方における久津八幡宮・尾崎の明白神社とともに、三大拝殿の 1 に数えられる壮麗な建築である。

<引用文献> 土田吉左衛門編集『飛騨の神社』1,289 頁 飛騨神職会発行 昭和 63 年



0001_建物



0002_建物



0003_建物



0004_建物



0005_建物



0006_建物



0007_建物



0008_建物



0009_建物



0010_建物



0011_建物



0012_建物



0013_建物



0014_建物



0015_建物



0016_建物



0017_建物



0018_建物



0019_建物



0020_建物



0021_建物



0022_建物



0023_建物



0024_建物



0025_建物



0026_建物



0027_建物



0028_建物



0029_建物



0030_建物



0031_建物



0032_建物



0033_建物



0034_建物



0035_建物



0036_建物



0037_建物



0038_建物



0039_建物



0040_建物



0041_建物



0042_建物



0043_建物



0044_建物



0045_建物



0046_建物



0047_建物



0048_建物



0049_建物



0050_建物



0051_建物



0052_建物



0053_建物



0054_建物



0055_建物



0056_建物



0057_建物



0058_建物



0059_建物



0060_建物



0061_建物



0062_建物



0063_建物



0064_建物



0065_建物



0066_建物



0067_建物



0068_建物



0069_慈雲禪院



0070_慈雲禪院



0071_慈雲禪院



0072_慈雲禪院



0073_慈雲禪院



0074_慈雲禪院



0075_慈雲禪院



0076_遠景



0077_遠景



0078_遠景



0079_遠景



0080_遠景



0081_遠景



0082_遠景



0083_遠景



0084_遠景



0085_遠景



0086_遠景



0087_遠景



0088_遠景



0089_遠景



0090_遠景



0091_遠景